

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	田中 久美子	(****年**月**日)
本 籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)	
学位授与番号	甲第144号	
学位授与日付	平成28年9月21日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	尿失禁を有する在宅要介護高齢者の排尿支援に関する研究	
審査委員	教授 伊東 美佐江	教授 竹田 恵子
	教授 松本 啓子	

博士論文内容の要旨

本論文は、専門職が実施している排尿アセスメントの現状と、尿失禁を有する在宅要介護高齢者の排尿方法、および家族介護者の介護状況に関する現状を明らかにし、排尿支援への示唆を得ることを目的としたものである。第Ⅰ章では、先行研究から、尿失禁を有する在宅要介護高齢者の排尿方法に関する実態や排尿アセスメントの現状は十分に明らかにされていない現状が示された。第Ⅱ章では、訪問看護ステーションおよび居宅介護支援事業所を対象とした質問紙調査を実施した。専門職が実施しているアセスメントのための情報収集は、高齢者の現在の排尿方法を維持することに主眼がおかれ、膀胱機能の情報は十分でないこと、高齢者の排尿方法は家族の介護力に影響を受けることが明らかとなった。第Ⅲ章では、尿失禁を有する在宅要介護高齢者と家族介護者の両者を対象とする質問紙を用いた面接調査から、高齢者の排尿方法はトイレとおむつの併用の者が大半を占め、頻尿や中等量から多量の失禁を有する傾向があることが確認された。それらの結果から、家族介護者の困りごとが高齢者の排尿状況に関連していると推察される事例の検討もふまえて、高齢者および家族介護者への排尿支援内容についての提言につなげた。総括では、在宅要介護高齢者の排尿支援において、排尿日誌を活用し排尿パターンや膀胱機能、家族介護者のニーズをアセスメントした排尿支援の重要性と、在宅で医療的介入を判断する看護師の役割を指摘した。

博士論文審査結果の要旨

研究結果から、訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所が実施している排尿アセスメントのための情報収集の現状と、尿失禁を有する在宅要介護高齢者の排尿方法、および家族介護者の介護状況に関する現状を明らかにし、排尿支援の重要性を指摘した。本論文は、多くの事例の集積を通して、尿失禁を有する在宅要介護高齢者の排尿方法と家族介護者の介護状況ならびに困りごとを明らかにしており、このような現状を報告した研究は稀である。本論文は、論旨は一貫しており、尿失禁を有する在宅要介護高齢者の排尿方法と家族介護者の現状を具体的に示した点で優れており、新規性がある。また、博士学位論文発表会においても適切に回答がなされた。